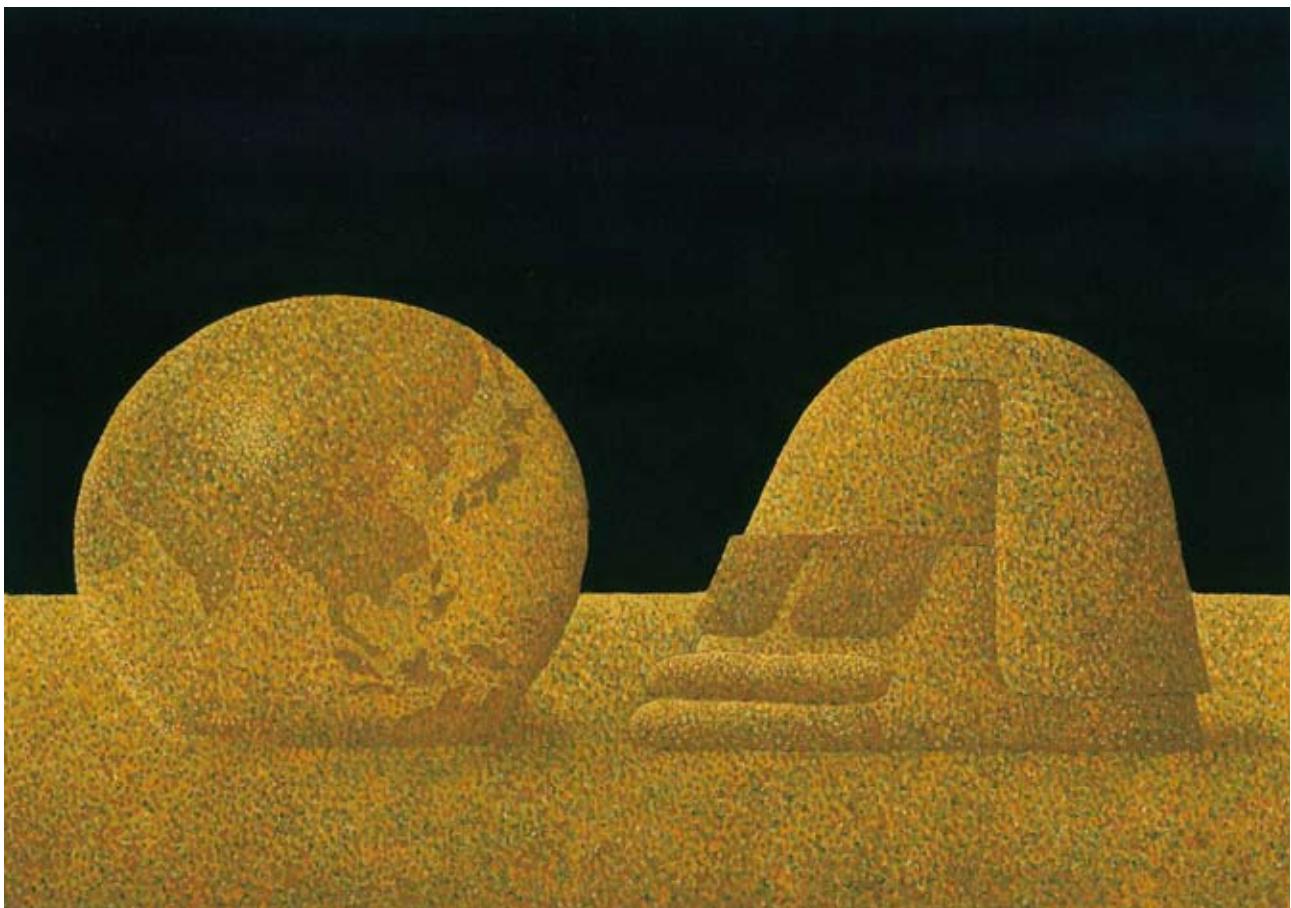


松本清張記念館

◆館報◆
2009.8
第31号



【最優秀賞】

清張似顔絵コンテスト 入賞作品決定ト

(詳しくは七頁)



一次審査



山藤章二氏による審査

目次

- 松本清張生誕100年記念古代史講演 ······ 8
- 生誕100年記念事業 ······ 7
- 友の会からのお知らせ ······ 6
- トピックス ······ 2

松本清張生誕100年記念古代史講演

平成21年6月13日(土)午後2時 立命館大学 在心館七〇一教室

今回は、松本清張生誕100年と併せて、松本清張研究会第20回研究発表会を開催しました。多くの清張ファンや古代史愛好家で、会場は熱気にあふれ、途中で帰る人もいないほど熱心に聴講されていました。

【断碑】 — 松本清張さんとの最初の出会い —

松本清張さんという存在を僕が最初に知ったのは、昭和二十九年の頃。「別冊文藝春秋」[芥川賞・直木賞作家小説特集]。府立高校に勤めていた当時は、小説とかその類はいっさい買わなかつたんですが、不思議にこれだけは持つているんです。清張さんが「風雪断碑」「断碑」と改題)という題で、「若き考古学者夫婦の生涯」というサブタイトルの小説を書かれている。おそらく考古学者でこの雑誌を持つている人はほかにはおらんと思う。

この小説は、森本六爾という若き考古学者をモデルにしている。この人は昭和十一年に三十四歳で肺結核で亡くなっているんですが、奥さんの方がちよと先に死んだ。森本六爾さんの論文は必ずしも読みやすい文章ではなく、ある学者に言わすと、キザな文章なんですが、実は、松本清張さんはその論文を読みこなして、小説の中で実に上手に消化しています。作中にいっぱい論文の出てくる「火の回路」(『火の路』)と改題)の、先駆的な作品といえる。その後の清張さんの手法がよく見えてくるんです。文章は実に歯切れがよく、飾りがいっさいない。事実関係だけをすらすらと並べた文章で、個性の強い森本六爾を語るには非常にみごとな小説

で、僕はそのとき初めて松本清張さんという作家の名前を覚えたわけです。

では、清張さんがどうして森本六爾に関心をもつたのか。森本さんは、考古学界でも無名になりましたが、専門の中学校で考古学にめり込んでいった人です。しかし才能があった。現在の高等学校の教科書などでも弥生時代は稻作文化だと当たり前のよう載せてますが、あれは森本さんが論文で定着させたんですね。森本さんは、奈良県の小学校の代用教員をしていた。結婚してから腹が立つのは、僕が昭和三十年段階で書いた中公新書なんかを、今の段階の眼で批判する若い研究者がおるんですね。そいつはやっぱりいけません。その段階におまえがおつたらどんなことを考えられたかと、そういうことなんですね。研究史として取り上げるのはいいですよ。しかし、今の学問レベルで同じような土俵にのせて論じるのは、卑怯者という感じがしますね。(笑)

【遊古疑考】 — 「三角縁神獣鏡への懷疑」 —

昭和四十年、僕は高等学校から同志社大学に職を変えました。その頃、僕の書いたものの中に、昭和三十七年の「古代史講座」、それと同志社に変わつてから参加した「シンボジウム古墳時代の考古学」というのが二冊あります。これを清張さんは実に克明に読んでくれて、「遊古疑考」(『芸術新潮』連載、原題「遊史疑考」)に取り上げてくれたんです。

連載が始まつた頃、ある日突然、清張さんから電話がかかってきて、鏡について実際に細かい

昭和四十一年、清張さんは「魏志倭人伝」をめぐる問題を雑誌の「中央公論」に連載された。「古代史疑」です。非常に面白いものでありまして、當時僕も、古代史の先生が読む倭人伝ではない読み方を、すでに清張さんがしていることに非常に感心したのです。幸い昭和四十八年に中公文庫が出て、僕がその解説を書きました。いま読んでみると、非常に褒めているんです。

ただし、今年のお正月に『西日本新聞』が松本清張さんの古代史の一冊という特集をやつたんですが、僕はやはり昭和四十八年の段階と現在の段階では大分違うと書きました。清張さんの推理小説は永久の生命を持つけれども、やはり考古学・古代史ものについてはその後の発見とか研究の進展によって、通用しないところがあるということです。これは、清張さんに限らず、我々考古学者、古代史家など、研究者にとっても当然付いてまわる宿命ですね。だから時々腹が立つのは、僕が昭和三十年段階で書いた中公新書なんかを、今の段階の眼で批判する若い研究者がおるんですね。そいつはやっぱりいけません。その段階におまえがおつたらどんなことを考えられたかと、そういうことなんですね。

研究史として取り上げるのはいいですよ。しかし、今の学問レベルで同じような土俵にのせて論じるのは、卑怯者という感じがしますね。(笑)

そこで、電話での質問や読んだだけでは不安のところを全部チェックされた。それで、「遊古疑考」の中に「三角縁神獣鏡への懷疑」という大きな章を立て、清張さんはその中に「森浩一の意見」という項目を作ってくれまして、一から十五まで僕の言い分を全部列挙してくれました。三角縁神獣鏡という青銅の鏡が日本の四世紀頃の古墳からいっぱい出る。一番種類が多い。しかし、中国からは欠片も出ない。三角縁神獣鏡を構成している要素がことごとく出ない。だから、そういう事実があるのに、同じ専門家の間に、どうしてそれを簡単に中国で作つて卑弥呼がもらつてきたという仮説を立てる人と、僕のようないい人がいるのか。全部出来たんやないかという人がいるのか。清張さんは三角縁神獣鏡をじつと見て、「三角縁神獣鏡への懷疑」をお書きになつたんではなく、まずそういう疑問があつて、それが清張さんを非常に鋭く考古学の世界に首を突っ込ませた、一つの動機だつたんですね。

考えてみたら、日本は弥生時代に銅鐸を作るのが実に上手なんです。一つの型で同じ物を作るくらいは楽に作つていて。おそらく同じ技術で、三角縁神獣鏡も作つていて。とにかく、四世紀の日本にほとんど漢字を消化した鏡があんなに

【古代史疑】

あるということが、どういうことか。本当は日本文化の水準を考え直すのに実際に重要なデパートなんですね。学者も新聞もそのことには全然興味がない。だから、清張さんが昭和四十六年の段階でおやりになつたようなことでも、未だに行われていない。『遊古疑考』は、清張さんの作品の中でも重要な作品やと思つります。

確かにそのころ、高松塚の壁画が出た年に、東京大学から清張さんと僕に高松塚の壁画について喋れという話が来まして、行つたことを覚えております。五月祭で謝礼は三千円。(笑)終わったのが四時頃なんですが、清張さんが何ど、酒飲みに行こうかと言うんですね。僕は、忙しくて作家ですから、済んだら飛んで帰つてね原稿の続きを書くというやろと思ってたので、驚いた。また、きただない食堂に入つてビール飲んで、そしたら六時頃か七時頃になつてから、銀座の清張さん行きつけのクラブに連れて行つてくれました。あまり高い所ではなかつただけね。(笑)しかしね、清張さんという人はそういうゆとりを持った人やつた。やっぱり清張さん司馬さんそれから陳舜臣さん、そういつた一流の作家は違いますね。陳さんなんか、明日から中国に行くという前日会つたらですね、ちょっと一杯飲みに行こうかと、飲んだのを覚えています。

「松本清張の考古学」

○考古学・日本文化史。同志社大学名誉教授。

森浩一

昭和三（一九二八）年、大阪市生。昭和三十二（一九五七）年、同志社大学大学院卒業。大阪府立高校の教諭を勤める。昭和四十（一九六五）年、同志社大学に戻り、四十七年教授に就任。

『日本の古代』全十五巻別巻一(共隠、中央公論社、一九八五二七八)

『記紀の考古学』（朝日新聞社、二〇〇〇）
『京都の歴史を足元からさぐる』（学生社、一〇〇七一〇八）

「日本海シンボジウム」 —清張さんの意欲

た。あまり高い所ではなかつただけね。(笑) しかしね、清張さんという人はそういうゆとりを持つた人やつた。やっぱり清張さん、司馬さんから陳舜臣さん、そういう一流的作家が違いますね。陳さんなんか、明日から中国に行くという前日会つたらですね、ちょっと一杯竹みに行こうかと、飲んだのを覚えていてます。

『日本海シンポジウム』 —清張さんの意欲

『ゼミナール日本古代史

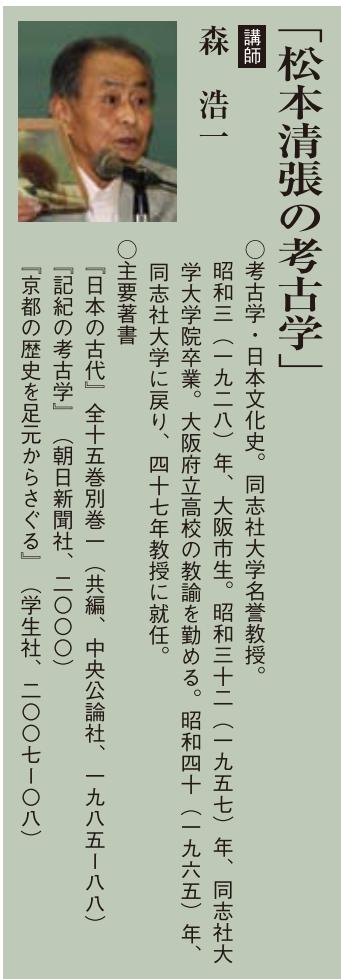
昭和五十四年に、光文社が『ゼミナール日本古代史』を出版しました。日本の学界を総動員として分厚い本を作りたい。上下二冊で編集することになって、僕が相談を持ちかけられた。僕が選んだのは、古代史では今日お見えになつてゐる直木孝次郎さん、京都の上田正昭さん、それから思い切つてもう一人を松本清張さんにしたんです。清張さんはらく喜んでくれましたね、「やつとぼくを学者扱いしてくれたか」と（笑）、ものすごく喜ばれたのを覚えています。そやけど、僕はべつに東大の五月祭のとき

火の路
三行

——学術論文+推理小説
昭和四十八年に、朝日新聞が「火の回路」(「火の路」に改題)という清張さんの小説を連載しました。ものすごく難しい。至る所に、清張さんが創作した論文が入っている。あれはすごいですね。飛鳥に遺る、齊明天皇の頃に造ったと思われる謎の石造遺物をめぐつての清張さんの考え方なんですね。

とにかく、ないではないという返事をした。ところが、小説を読んでいくと、実は「火の回路」の最後の仕上げの段階で、その横穴が壊れて準主人公の男が生き埋めになる。だから、清張さんがいつの時点で「火の回路」の最後の結末を考えていたのかが分かる、面白い手紙なんです。

文藝春秋が七月に『火の路』の文庫を出すので、その解説を書いたのですが、中で、特に飛鳥の石造物については、清張さんの慧眼をもつてしても見抜けなかつた点が、その後の大発見で出てきた。特に、酒船石の下でいろんな物が次々に出だしましたね。もう今、酒船石だけで考えるというのは時代遅れ、あの地域全体の構造で考えなくてはいけない。これは清張さんの頃には思いもよらなかつたことです。しかし、清張さんは石造遺物を齊明天皇の頃の物だと言つたことや、それから東アジア的視野だけで考えたのではだめで、西アジアやペルシヤのゾロアスター教というものを視野に入れる必要があるとした、そういう点ではすごい小説やなあと思います。「火の回路」は、清張さんの非常に高いレベルの学術論文、プラス推理小説、両方をミックスさせた見事な小説やと、段々分かつてきました。



伊勢神宮の起源の伝説

『日本書紀』には、天照大神はもと倭の大國魂神とともに天皇の大殿の内に祭られていたが、崇神天皇六年のときには神様の勢いを怖れて、天照大神を豊鉢入姫命にかけて倭の笠縫邑に祭らせ、倭の大國魂神を渟名城入姫命にさけて祭らせましたとあります。

松本清張さんはこれを、天照大神と倭の大國魂神とは共に住むことを好まず、つまり二柱の神は仲が悪かつたので宮中から出して、倭の笠縫と三輪山に祭つたと解釈しています。しかし、天皇が神の勢いを怖れて、同じ御殿で共に同じ床の上で具合が悪いと考えられたと解するのが通説です。松本さんの読みちがいと思います。

そして、次の垂仁天皇の二十五年に、倭姫命が天照大神を奉じて倭から近江、美濃の国を廻って、伊勢に到る。天照大神が、常世の浪の寄せる良きところであるとおっしゃったので、社を伊勢の国に建てた。長い間これが伊勢神宮の起原と信じられていました。

松本さんは、倭は先住民の地元信仰が強く、後から朝鮮から入ってきた外来者の天皇家の神は、それに圧迫され倭国内に祭ることができなかつたので、天照大神を伊勢に祭つたのだ、と解釈しておられました。

垂仁天皇といえば、四世紀の初め頃というのが通説です。その頃ヤマトには、前期の大古墳が出来、有力な首長がいたことは疑うことはできません。天皇家の何らかの意味の祖先に当たる王がいて、伊勢にもその勢力は及んでいたでしょう。が、四世紀の初めでは伊勢はまだ辺境

で、天皇家の氏の神の天照大神を伊勢の南端に祭つたとは信じられません。

伊勢神宮の起源を崇神・垂仁朝のこととしたのは、起源を出来るだけ古くして、権威付けをするためであろうと思います。

伊勢神宮はいつから実在したか？

では、いつ頃から伊勢に天照大神を祭るようになつたのか。手がかりは斎宮の問題です。

斎宮ですね。斎宮とは天皇の妹や娘など近親の女性で、伊勢神宮の祭りを通じて天照大神に仕える王族のことです。また伊勢のその建物も斎宮と言います。斎宮という制度がいつから始まつたか。『書紀』『古事記』から斎宮の起源と考えられるのは、もっとも古い斎宮は崇神の頃の豊鉢入姫命です。しかし、この時代から斎宮があつたというのは、やはり斎宮の歴史を飾るために後から作つたものと考えた方がいいと思

います。

次に、垂仁・景行天皇のとき倭姫命、五百野皇女が斎宮です。ところがそれで斎宮はしばらく途絶える。百年以上間が切れ、五世紀の後半の雄略天皇に斎宮が出てくる。しかし、斎宮の稚足姫皇女は、廬城部連武彦という豪族かと思われる者に汚された。いわゆる情を通じたという密告をされて、五十鈴河のほとりで神鏡を土中にうずめて自殺したと『書紀』に見えます。ともかく斎宮の制度は成功しなかつた、あるいは伊勢の豪族の反発にあって受け入れられなかつたと思われます。

斎宮が安定するのは雄略より一二、三十年後の、

「壬申の乱と伊勢神宮」－松本清張説にこたえる

講師

直木 孝次郎

○日本古代史。大阪市立大学名誉教授。文学博士。

大正八（一九一九年）年、兵庫県神戸市生。昭和十八（一九四三年）年、京都帝国

大学文学部国史学科卒業。大阪市立大学教授、岡山大学教授などを歴任。

第十三期日本学術会議会員。和島誠一賞（第一回）、井上靖文化賞受賞。



○主要著書

『飛鳥奈良時代の研究』（堀書房、一九七五）

『日本古代の氏族と国家』（吉川弘文館、二〇〇五）

『額田王』（吉川弘文館、二〇〇七）

○日本古代史。大阪市立大学名誉教授。文学博士。

大正八（一九一九年）年、兵庫県神戸市生。昭和十八（一九四三年）年、京都帝国

大学文学部国史学科卒業。大阪市立大学教授、岡山大学教授などを歴任。

第十三期日本学術会議会員。和島誠一賞（第一回）、井上靖文化賞受賞。

伊勢大神の発展

こうして、伊勢に天照大神を祭る社が成立する。しかし、六世紀の段階での伊勢神宮は斎宮がお祭りをしますが、天皇家の最高神ではなかった。天皇が直接伊勢神宮を参拝したという資料は一度も出できません。また、壬申の乱を経て伊勢神宮の地位が高まつたと思われる持続朝でも、伊勢神宮は住吉神社など、各地の有力大社との差が少ないので、『書紀』持続六年の五月と十二月の条に列挙された、ほかの地方神とその意味では同格に書かれています。

その中から、伊勢の天照の地位が抜け出している。伊勢が太陽神の信頼の厚い土地であったことは、伊勢が太陽神の信頼の厚い土地であったことです。天照大神も皇祖の神、祖先神として祭

松本清張研究会 第20回 研究発表会 II

平成21年6月13日（土）午後2時

立命館大学 在心館七〇一教室

の乱です。天智天皇が亡くなつた翌年の六七二年、弟の大海上皇子が反乱を起します。大海人は自分の領地、美濃にある湯沐の邑を本拠にして挙兵し、東国各地の豪族に呼びかけて援軍を募ります。東国に広く信仰を持ち勢力があると思われる伊勢大神にも応援を依頼したようです。天武天皇が朝明郡迹太川邊において、天照大神を望拝するという記事がございます。望拝し援軍を頼んだのに対して、伊勢神宮がちゃんと答えておるのが分かる、万葉の歌があります。天武天皇の長男で壬申の乱の勇将で、指揮官であった高市皇子が死んだときに、柿本人麻呂が作った挽歌です。正式に天皇の地位についた天武は自分の娘の大来皇后を、推古以来半世紀ほど中絶していた斎宮として伊勢に送ります。これより伊勢神宮は伊勢の地方神から天皇の氏神の最高の地位を得ることができたと思われます。



雄略朝なしし繼体朝から始まる伊勢の斎宮の体制が、なぜ推古朝で中絶して天武朝まで半世紀ほど斎宮が送られなくなるのか。再考の端緒は、天照大神のほかに高皇產靈神もまた皇祖神、天皇の祖先神であるという問題でした。

『記紀』の神話を検討しますと、天孫降臨で、天照大神の孫として高天原から地上に降つてくる有名な瓊瓈杵尊は、天照大神の男の子、天忍穗耳尊と高皇產靈神の女の子、櫛幡千千姫の間に生まれたと、『日本書紀』にちやんと書いてあるので、高皇產靈神も皇祖に間違いない。しかし、なぜ天皇家に皇祖神の元になる最高神が二柱あるのか。最高は一柱でいいはず。それについては、天照大神は南方系ないし土着系の神で、早くから天皇家の最高神として崇められ、後から北方系の高皇產靈神の信仰が朝鮮から日本に入ってきて、天照大神に取つて代わつて天皇家の最高神となつたという解釈が有力だと思います。溝口睦子さんの『王権神話の二元構造』も同じ考えに基づく研究です。しかし、そうすると、三品彰英さんが整理した天孫降臨の表にあるように、高皇產靈神が古く、天照大神がなぜ新しく現れてくるのか、逆転していますから、解釈しにくいわけです。

しかし、その疑問は三世紀末頃、奈良盆地に成立した第一次ヤマト政権が天照大神を最高神として祭り、四世紀末頃それとは別系統の王權（河内王權）が大阪平野に成立して、高皇產靈を最高神として祭つた。これが、私の河内政権論の基本ですが、そう考えることによって解けると思います。河内王權は応仁・仁徳の時代に始まると推定しております。この二つの王權が大和と河内に別々に存在する場合は、最高神が二柱いても問題はないが、五世紀後半に河内政権が第一次ヤマト政権を圧倒し合併して、第二次ヤマト政権が成立すると、問題になる。私

は允恭朝から雄略朝に合併したと考えていますが、その結果、第二次ヤマト政権には高皇產靈神と天照大神の二柱の最高神が並立することになつた。おそらくは五世紀頃は天照大神は太陽神、高皇產靈神は天の神と信じられていて、七、八世紀には、ともに天皇家の祖先神となるのではないかでしょうか。

なぜ天照大神は伊勢に祭られたか、 またその時期

このように考えてみると、五世紀の後半ないし六世紀前半に、天照大神が伊勢に祭られるようになった理由は、前に考えた説（南伊勢は東国との交通の便利な重要地点として、天照大神を祭る場所になった）とはまったく別の解釈が出てきます。五世紀後半以後の第二次ヤマト政権としては、二つの最高神がいるという事態は国家の体制としては不都合である、最高神は一体の方がよい。第二次ヤマト政権の主導権を握っているのは高皇產靈神を奉ずる河内王權の側である。ですから一柱となると、高皇產靈神を選ぶのが自然で、天照大神はむしろ邪魔になる。だから、それなりの敬意を表して天皇の近親の女性を斎宮として侍らしたが、実質は僻遠の地、南伊勢に左遷したのです。極端にいえば、追放した。しだいに、天照は中央の天皇家とは疎遠になり、代わりに東国地方の豪族の信仰を得て、地方神化していく。斎宮を送るという特別な待遇がおよそ一世紀後に絶え、廃止されるのはそのためだらうと思います。

壬申の乱と 伊勢神宮（天照大神）との関係

しかし、天照信仰は東国の豪族の間に拡がつたようあります。『古事記』に見える国造氏族の祖先を見ますと、天照大神の子とされる建比良鳥命と天津日子根命を祖とする国造が東国地方に多い。七世紀後半の壬申の乱を大海人

皇子が計画したとき、目を付けたのは、伊勢大神である天照大神の信仰が東国の中でも広く拡がつてゐることでした。伊勢神宮を遙拝したのは援助を祈つたのですが、事前に協力を依頼していました。

松本清張さんは、大海人が伊勢の天照大神を遙拝したという記事はすこぶる怪しい、『書紀』の書かれた八世紀の初めに伊勢神宮が大きくクローズアップされていましたので、その反映であろうと言つておられます。大海人の神宮遙拝のことは亂に従軍した大海人側の舍人、安斗連智徳が日記に「迹太川上において天照大神を遙拝す」と書きとめていたことが、『祝日本紀』に出ておりますから疑うことできません。

天照信仰が東国の中の豪族の間に根強いことを認識した大海人は、乱後の政治を、天照大神の信仰を中心にして復活させ、これをバッタにして行おうと考えた。乱後に斎宮を復活して伊勢神宮の地位を高めたのも、今いつたような見通しをもつてのことでしょう。

ヤマトの朝廷は六世紀前半頃、天照大神を伊勢に左遷して以後は、高皇產靈神を唯一の最高神として崇めていましたが、天武はその高皇產靈神を主神とする神話も天照大神を中心に作り直そうとしたわけです。それが、『古事記』の元になる神代の物語です。天照大神の方が高皇產靈神より古い、天皇家の最高神なのに、『記紀』の神話では高皇產靈神の方が古く、天照大神の方が新しい形になつてゐるわけは、今申したような事情です。

また、天武が努力して地位を高めたにも係わらず、天照大神は持統朝においても伊勢の神として他の地方の神々との差が小さいのは、六世紀前半以降、長く地方神の地位に下つてしまつたため、それが後まで尾をひいて、急に最高神の地位に上がることを困難にしたんだと思います。このことも、伊勢へ祭ることが左遷、追放であつたとすると、よく分かると思います。



松本清張生誕100年記念事業

一月から開始しました松本清張生誕100年記念事業も、夏から秋にかけていよいよ佳境を迎えます。原作舞台劇やウオーキングなど、記念事業の豪華ラインナップをご紹介します。

清張原作舞台劇 或る「小倉日記」伝

■ 松本清張が第二十八回芥川賞を受賞した作品の舞台劇の公演です。

或る「小倉日記」伝



北九州公演

■ 公演日時
平成二十一年十月二日(金)
～四日(日) 十五時開演

※二日(金)はチャリティ公演のため、一般発売は三日(土)、四日(日)のみ

■ 場所
北九州芸術劇場・中劇場

■ チケット発売
八月一日(土)発売開始
チケットぴあ
電話 ○五七〇一〇二一九九九
〔Pコード 三九五一四二四〕
四、五〇〇円(全席指定)

■ 問合せ先
松本清張生誕100年記念事業実行委員会事務局

■ 東京公演
■ 公演日
平成二十一年十月九日(金)
～十二日(月祝)
■ 場所
吉祥寺・前進座劇場
■ 問合せ先
劇団前進座東京営業所
電話 ○四二二一四九一一八一一

清水小学校松本清張生誕100年記念プレート除幕式

平成二十一年七月四日(土)、新校舎が落成した北九州市立清水小学校において「松本清張生誕100年記念プレート」の除幕式が行われました。

同校の前身は、松本清張が一九二二(大正十一)年に入学し、一九一四(大正十三)年に卒業するまで在籍した板櫃尋常高等小学校です。



記念切手シート

松本清張生誕100年記念オリジナル切手シートが平成二十一年七月一日(水)に発売されました。

■ 発行数
デザインが異なる二種類のシートを各二、五〇〇シート
■ 定価
一シート(八十円切手十枚)
一一〇〇円
■ 販売期間
平成二十一年七月～九月
■ 販売箇所
北九州市内の郵便局



松本清張生誕100年記念 清張似顔絵コンテスト



【九州産業大学賞】



【北九州市長賞】

- 姫路 八月十五日(土)
- 仙台 十一月二十三日(月・祝)
- 高知 十二月五日(土)
- 巡回展記念清張ウォーク
- 申込み・問合せ先
北九州無法松ツーデーマーチ事務局
電話 ○九三一六七一一七七四六

青春座舞台劇「ゼロの焦点」
北九州で活躍中の
劇団青春座による舞台劇
■公演日時
平成21年11月21日(土)
18時30分開演
11月22日(日)
13時30分開演
■場所
北九州芸術劇場・中劇場
■問合せ先
劇団青春座
電話 093-922-4995

- コース（）内はスタート時刻
四十キロメートル（朝：七時三十分）
二十キロメートル（朝：八時三十分）
十キロメートル（朝：十時）
五キロメートル（朝：十時）
- ※二十日(日)の五キロメートルコースは「清張文学浪漫ファミリー」
コース
- 会場
北九州市内・小倉北区勝山公園
- 開催日
平成二十二年九月十九日(土)、
二十日(日)
- 上映作品
（小倉北区魚町四丁目二番九号）
※戦前からある映画館で、清張は一九五〇（昭和二十五）年に公開された黒澤明監督の「羅生門」を見に行つた。
- 上映会場 小倉昭和館

- 募集期間 平成二十年十一月～平成二十二年三月三十一日
- 最優秀賞、北九州市長賞及び九州産業大学賞
木下 義信（広島県）
- 最優秀賞
○北九州市長賞 横畠 正彦（福岡県）
- 九州産業大学賞 宇田川のり子（東京都）

全国から計一二一八点の応募があり、朝日新聞東京本社で、山藤章二氏による審査の結果、最優秀賞一点、北九州市長賞一点、九州産業大学賞一点、優秀賞三点及び佳作十点が決まりました。また、子どもの作品の中から朝日新聞社賞として十二点が選ばれました。

山藤章二氏は、「全国からバラエティに富んだ多くの作品の応募がありました。その中でも最優秀賞作品は、松本清張のスケールの大きさを地球規模で表現したアイデアがすばらしい」と講評しています。

中高生のための松本清張読本

松本清張の生涯や作品を、写真を使つて分かりやすく紹介した中高生向けのガイドブックです。代表作の抜粋や中高生におすすめの作品のあらすじや解説を掲載。また、子どもたちに読書や努力を勧めるエッセイを紹介するな

ガイドブック発行

ど、松本清張に親しみを感じることができます。



清張原作映画特集

- 上映期間
平成二十二年八月一日(土)～
九月四日(金)の五週間
- 上映会場 小倉昭和館

松本清張原作映画特集

（小倉北区魚町四丁目二番九号）
※戦前からある映画館で、清張は一九五〇（昭和二十五）年に公開された黒澤明監督の「羅生門」を見に行つた。

友の会からのお知らせ

●友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集●

松本清張記念館友の会は8月1日から翌年7月31日までを1年度として取り扱っています。
今年度も引き続き更新いただきますようよろしくお願いします。
また、新規会員も募集中です！友の会では清張ゆかりの地の見学、読書会・講演会の開催、会報の発行など多彩な事業を展開しています。会費は1年間で3,000円です。

友の会入会のお申し込みは…TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

●“清張生誕100年記念事業”に関するお問合せは
松本清張生誕100年記念事業実行委員会事務局
TEL:093-582-3275 FAX:093-582-1055

●松本清張生誕100年ホームページ

清張生誕100年記念事業の情報が一目でわかる
ホームページを開設しています。

<http://www.seicho-100.com>

ホットな情報を随時更新中。

平成 21 年度
中学生・高校生

読書感想文 コンクール



昨年に引き続き、清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

■応募対象 全国の中学生・高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「顔」(角川文庫『顔・白い闇』、光文社文庫『松本清張短編全集⑤ 声』、新潮文庫『傑作短編集5 張込み』など)

「西郷札」(文春文庫『宮部みゆき責任編集松本清張傑作短篇コレクション』下、光文社文庫『松本清張短編全集① 西郷札』、新潮文庫『傑作短編集3 西郷札』)『球形の荒野』(文春文庫『球形の荒野』)

■応募方法

○中学生・高校生ともに 1200 ~ 2000 字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

■応募締切 平成 21 年 10 月 31 日(土)必着

■応募先 〒803-0813 福岡県北九州市小倉北区城内2番3号

松本清張記念館 感想文コンクール係

※応募用紙は記念館公式HPからダウンロードできます。

■選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発表

審査結果は、12月下旬頃、本人と学校に通知します。

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、表彰式を行います。

なお、入選の結果や受賞作品を記念館刊行物等に掲載することがあります。

その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1人)(モンブラン) 万年筆「マイスター・シュテック No.149」

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人) 文具など(未定)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人) 記念館グッズと図書カード

☆生誕 100 年特別賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)

生誕 100 年オリジナルグッズなど

★本年だけの特別賞を増設しました。

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は<特別賞>として「館報」掲載を予定しています。

●主催 北九州市教育委員会

●主管 北九州市立松本清張記念館

●協力 松本清張生誕 100 年記念事業実行委員会・モンブランジャパン



2009年

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30~午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日~12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からは100円バスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

松本清張記念館

第11回

松本清張研究奨励事業 入選企画決定

平成 10 年度に創設した「松本清張研究奨励事業」も 11 回目を迎えました。今回は、松本清張の幅広い活動に対して、文学研究、古代史・現代史研究、人物研究など多彩な研究企画案の応募が、国内外から 13 点ありました。

選考委員会による厳正なる審査の結果、次のとおり入選者が決まりました。

企画名 『黒地の絵』の英訳

入選者 加島 巧(長崎外国語大学教授)

奨励金 45 万円

企画名 松本清張が追った、ヨーロッパの幻影を求めて
— 欧州統合運動の隠された一面 —

入選者 前田 洋平(筑波大学人文社会科学研究科)

奨励金 60 万円

企画名 松本清張の小説世界と今の中国社会の類似性について
— 時代背景と人間の共通心理を視点に

入選者 張 雷(南京師範大学准教授)

奨励金 60 万円

第12回

松本清張研究奨励事業募集

募集要項

対象 ①松本清張の作品や人物を研究する活動
②松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限りません。個人又は団体も可。

内容 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。

応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的に分かる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成22年3月31日までに応募してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

・編集後記・

今年も8月4日がやってきて、松本清張記念館も開館11周年となりました。今年は1月から清張生誕100年で入館される方が多く、入館者100万人達成を期待しています。今後多くの皆様にお越しいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

(西本 衛)

